

<東遊園地の歴史>

- 1875年(明治8年) 居留外国人のレクリエーションの場として設置(名称:内外人遊園地)
- 1922年(大正11年) 東遊園地と改称
- 1963年(昭和38年) 南側エリアが公園区域に編入
- 2000年(平成12年) 慰霊と復興のモニュメント設置



<今後の整備スケジュール(予定)>

- 令和3年 東遊園地北側工事 着手
- 令和4年春 こども本の森神戸 オープン
- 令和4年秋 にぎわい拠点施設 オープン
- 令和5年夏 税関前歩道橋 完成
- 令和5年秋 東遊園地全体完成

<再整備の考え方>

○平成27年～ 社会実験・芝生化実験開始
○平成28年 再整備検討委員会、市民アンケート

平成30年6月「東遊園地再整備基本計画」策定>>>空間構成の考え方を3つに整理

残したいもの

- ・慰霊と復興のモニュメント
- ・都心の豊かなみどり

変えたいもの

- ・空間同士の分断間
- ・閉鎖的な街角

創りたいもの

- ・しなやかな器となる広場
- ・にぎわいや交流が生まれる拠点施設

これまでの検討状況
○令和元年～ 東遊園地アドバイザーボード
○令和2年4月 市民WE Bアンケート
○令和2年6月 パブリックコメント

令和2年9月「東遊園地再整備基本設計」策定>>>重点項目を5つに整理

つながり・解放
にぎわい・交流
みどり・花・環境
記憶の継承
景観

これらの実現に向け、**公園を4つの「ひろば」に再構成し、新たな施設の設置**

関連施設 令和4年春オープン予定

こども本の森神戸 こどもの創造性を高める空間づくり



(安藤忠雄建築研究所提供)

関連施設 令和5年供用予定

税関前歩道橋 駅からウォーターフロントへの回遊性向上



(エイト日本技術開発・イー・エー・ユー共同体提供)

東遊園地基本設計 計画図面



みちひろば

- ・既存の大径木の木陰を活かしたひろば空間
- ・歩行者や公園利用者が気軽に利用できるベンチ等の設置
- ・慰霊と復興のモニュメントを中心とする軸線の明確化

見晴らしひろば

- ・小イベントにも対応できる平坦部の多いデッキテラス
- ・にぎわい拠点施設前の芝生ひろばをステージに見立てた階段状のベンチ

視点① 北東側エントランスより

人の流れ・滞留の誘引 みちと広場の分断間解消



新施設 令和4年オープン予定

にぎわい拠点施設(仮)URBAN PICNIC 新たなにぎわい・交流の創出



(株式会社村上工務店、株式会社ティーハウス建築設計事務所、一般社団法人リパブルシティイニシアティブ提供)

視点②「見晴らしひろば」より

緑の中で休養できる空間の創出

